

# フェアブル会のイベントの性格と参加条件について

## 1. 参加資格 (会員にならなくてもイベントには参加できます)

フェアブル会が主催募集する昆虫関係イベント（採集観察会、標本教室など）には、どなたでもご参加いただけます。フェアブル会の会員やフェアブル会の中にある昆虫塾の会員でないと参加できないということは一切ありません。また、上記の会員だからといっても、何かが有利になったり参加が優先されたりということも一切ありません。

また、上記の会員であっても、募集開始を個人にお知らせするようなサービスもしていません。すべての人が公平に扱われることをモットーとしています。（NPO 法人であることも理由のひとつです）

## 2. 年齢制限・募集人員 (安全の確保などのため4項も参照してください)

イベントには参加年齢等の制限を設ける場合があります。これは、安全確保のためや子どもたちの能力や体力の発達状況を考慮し、イベントの進行をスムーズに運ぶために設けてあります。たとえば「うちの子は大丈夫だから」と言われても、対応はできません。もちろん個人差はあるものですが、前項に述べたとおり、公平な取り扱いがモットーだからです。これはフェアブル会等の会員であるかないかともまったく関係なく適用しています。

また、募集人員は、採集会では安全確保やスタッフの指導でコントロールできること、自然への圧力が大きすぎないこと、駅から歩いて行ける場所などを配慮し、また標本では教室の席数で、最大限の設定をしています。

一方、最近では募集を開始すると、短時間で募集人員が埋まってしまうことも多々あり、大変ご迷惑をおかけしておりますが、今以上に機会を増やすこともできません。

## 3. 申し込み方法 (HPからしか受け付けません)

参加のお申し込みは、HPの各イベントの案内詳細ページ（募集要項）のなかにある、「応募方法」の「イベント申し込みフォーム」から必要事項を登録し、送信することによって行います。お申し込みが受け付けられると自動返信メールが送信されます。（自動返信メールが届かない場合は入力メールアドレスの誤りか、あなたのメール受信設定で弾かれてしまっているかもしれませんのでご確認ください）お申し込み内容を確認し、以下のような場合は別途個別にご連絡します。

- ・定員オーバー・参加条件を満たしていない・催行中止・その他連絡が必要と判断した場合

「イベント申し込みフォーム」以外のお申し込みは受け付けておりません。フェアブル会への電話やスタッフ（昆虫館スタッフを含む）に直接申し込んでも、対応できません。

また、募集開始情報を事前に特定の人にお知らせすることもしません。これらの対応も、公平を期すためのものです。

## 4. 年齢制限の考え方 (虫とり、虫遊びの会ではありません)

イベントの主要なものは、昆虫採集観察会と初級昆虫標本作成教室です。これらは昆虫と科学的に対峙する手段を学ぶものです。昆虫を通じて自然を学ぶための科学的手段のひとつを学ぶのです。一般的に小学校で理科（科学）がはじまるのは3年生になってからです。また採集となると、体力、注意力などの能力が要求されます。標本づくりでは、器用さや集中力、バランス感覚などの能力が必要になります。そういうものは小3に出来あがるのではなく、そのころになって発達しはじめる能力です。それに応じた年齢制限を設定しています。しかし、もっと下の年齢の子たちからの要望も強いようなので、保護者の協力補助をお願いすることと、高学年の子と成果などに差が出ることを承知で参加して頂く場合もありました。

そこで、上級生たちの行動を見て育つのも有効なことだと考えたからです。しかし、最近では応募が殺到するようになり、そうした余裕もなくなりつつあります。

なお、具体的な制限は、行く場所や目的とするものの違いで、個々に検討して決めています。

また、上のお子さんの参加に、参加資格に満たない下のお子さんを同道させたいとのご希望があることがあります。しかし、このイベントは、ご説明しているように、単なる「虫とり」「昆虫採取」ではありません。遊びではなく、それなりの教育的な目的をもって行っているのです。ピクニックや野山遊びとは違います。この点も是非ご理解ください。

なお、子どもたちの発育発達については、HPの本欄のとなりに、「虫好きの子どもたちはどう育っていくか」という資料が紹介してあります。ご参考になるでしょう。ご一読ください。

## 5. 採集観察会のあり方（基本は自由行動、虫を採ったあとどうするかを考えた上で採る）

昆虫採集観察会では、現地での注意事項を説明することと、初歩の子に虫の採り方（捕る、取り込む、持ち帰りの方法など）を教えますが、あとは自由行動になります。初心の子を優先させたり、特別に指導したりすることはしません。また、予め獲物を用意しておいたり、確実に捕れる場所を確保しておいたりするようなことはしません。時期や天候などで大きな成果の差がでます。採集成果ゼロのこともあります。それが自然なので、自然そのものを学ぶ場でもあるのです。

採った虫を持ち帰る場合は、標本にできること、あるいは飼育ができること（飼育環境が作れ、餌の確保ができるなど）を確認します。採ったものを帰るときに放すことは、虫を弱らせて放すことになり、それでは決して自然に優しいこととは言えません。鳥などが捕え易くして放り出しているにすぎません。人はただ虫の死を見ないようにしているだけの偽善だと考えられます。基本は、採ったあとの始末ができないものははじめから採らないことです。これも「単なる虫取り」ではない所以です。

## 6. 科学的なことを学ぶとは（「昆虫採取会」ではありません）

昆虫採集や標本づくりは、科学的なことを学ぶための手段と書きましたが、幼児～小4くらいの関心事は、「虫取り」です。昆虫と特定するのではなく、虫です。虫を取ることで、それに触り遊ぶことが彼らの目的です。小2くらいからは、科学的な関心も混ざっている状態になります。関心事が虫遊びなのに、この年代の子に科学を押し付けるのは、子どもの発達状況から言って、あまり感心した ことではないと思われます。それが4項の背景です。

「昆虫採取」という言葉を使う人がいます。それはいったい何を指した言葉でしょうか？上記の背景をよく理解していない人が、実際を知らないで使っているようにも思われます。私たちの目的は決して「昆虫採取」ではありません。昆虫を採るのは、昆虫を科学的に知り研究するためです。その目的に関係のない虫を採ることはしませんし、採る虫の全体的な保護には並々ならぬ配慮をしているのです。（採集時のマナーやルールを教えることも、私たちの目的のひとつです）

これが私たちのやっている「昆虫採集観察会」です。このことをよくご理解いただきたいと考えています。

## 7. 昆虫採集観察会と昆虫塾（採集会は入門のための機会）

「昆虫採集」は基本的には、個人（もしくは少人数）でやる性質のものです。昆虫の種数は非常に多く、それをどう研究するのかというアプローチの仕方も多彩になります。そのため、同じような志向を持つ人はおのずと少なくなります。目的の虫によって、居場所はまちまちなので、採集に行くにも別行動になります。さらに大勢が同じ場所で採集すれば、それだけ環境に影響を与えやすくなります。一人なら小さな場所で環境に負荷を与えることが少なく採集観察ができます。

フェアブル会の昆虫採集観察会は、昆虫採集研究への入門のための機会です。基本的な要領がわかると、あとは自分で調べながら自分にあったフィールドで活動することになります。昆虫塾は、基本的にはそういう個人ベースで活動する人たちの情報交換や交流を図る場です。初心者（後進者）への支援や相談にも乗りますから、採集観察会を経験したら、そのあとで昆虫塾の会員になることを検討してはどうでしょうか。

## 8. 年間計画など（確実な情報だけを流します）

昆虫採集観察会などの先々の予定を知りたいとのご要望を頂きます。かつてそれに応えて公開したことがありましたが、情報が勝手に拡散されたりして、思いもよらない問題になることもあって、混乱を避けるため先の計画の公開を控え 確実な情報だけを公開することにしております。

採集観察会は自然相手のイベントです。季節の変化は毎年同じではなく、また災害も起きます。予定していた場所で工事が始まっていたり、立ち入り禁止になっていたりとこのようなことがよく起こります。あるいはバスの廃線、林の伐採、崖崩れ、台風被害などもあります。またその年の昆虫の発生状況も変化し早期予想が困難です。

そこで、おおよその計画は立てますが、具体化する時には、下見などで直近の現地情報を集め、安全や成果などを予想し、場合によっては代替地を探したり、時期を遅らせたりの対策をとります。一方、イベントの進行は全て別に本職がある「ボランティア」が行いますが、イベントの必要人数が他の行事と重なったりして、確保できないことも起き、予定の変更をせざるを得ないこともあります。ご理解ください。